



“地域”と生きる

～ 社会運動家・賀川豊彦氏の実践とセツルメント～

2008年11月8日(土) 午後2:00～6:00

社会問題解決に捧げる情熱の体感!

120年前に英国ロンドンで始まった福祉実践の方法セツルメント(貧困など社会的課題を抱えた地域に、教育 医療 福祉 法律などの専門家が常駐し、住民と共に、地域環境や社会制度の改善をはかる活動。その後のグループワーク、コミュニティワークの原型となった)。

地域において目の前にある課題を正面から受け止め、隣人に寄り添いながら共に生きていく姿勢は、社会の課題がより多様化 複雑化した今日において改めて求められています。

来年、関東大震災の被災者支援に奔走した賀川豊彦氏が神戸のスラムに身を投じてから100年、また、セツルメント活動を実践する(福)興望館は90周年を迎えます。

本プログラムでは、墨田地域に焦点を当て、賀川氏の精神や情熱に思いを馳せるとともに、市民活動の発展に必要な理念、考え方等について、みなさんと考えたいと思います。

“地域”、“隣人”とどのような関係を持って、課題解決に向かうのか?市民活動の根底に流れる想いの体感を通し、みなさんの今後の活動にエールを贈りたいと思っています。

会 場: (財)本所賀川記念館 (墨田区東駒形 4-6-2【都営浅草線本所吾妻橋5分】)

本所賀川記念館での講演後、セツルメント関連箇所を確認しながら徒歩にて移動(40分程度のフィールドワーク)後、興望館にて講演、見学となります。

興望館 (墨田区京島 1-11-6【東武亀戸線/京成押上線 曳舟駅5分】)

講 師: 服部 栄 さん <(福)雲柱社 理事長>

野原 健治 さん <(福)興望館 興望館館長>

参加費: 2,000円 **定 員:** 30名

対 象: NPO、市民活動、ボランティア活動等に携わる方や、関心のある方なら、どなたでもご参加になれます。

主催・申込: 東京ボランティア・市民活動センター(青柳・近江) > TEL03-3235-1171 FAX03-3235-0050

<10/31までにお申込下さい ➡ FAX03-3235-0050、またはホームページ <http://www.tvac.or.jp/> ^ >

団体・ご所属名: _____ (団体内での役割: _____) 主催者より返信いたします。

参加者氏名(フリガナ): _____

ご連絡先: (選択して下さい) 自宅・所属先) 〒 _____ ご住所: _____

TEL: _____ FAX: _____ E-mail: _____

ご記入いただいた個人情報は主催者が適切に管理し、市民活動に関する研修等事業のご案内に利用させていただきます。個人情報の取扱いに関する方針はホームページ(<http://www.tvac.or.jp/>)をご覧ください。

「本所賀川記念館沿革および賀川豊彦氏」について

(本所賀川記念館のホームページより)

本所賀川記念館の起源は、1923年(大正12年)の関東大震災に際して、賀川豊彦が被災者救援のため、神戸より東京本所の地に駆けつけてセツルメント活動を開始した時になる。この時、賀川豊彦を中心にしてこの活動に参加した人たちにより、本所基督教産業青年会が創られた。この同志的な団体は、その後、生活協同組合、医療活動、その他多彩な活動を展開した。今日、東駒形教会・光の園保育学校・中ノ郷信用組合が、この地にその歴史を担って活動している。

「興望館」について

(興望館のパンフレットより)

興望館は、1919(大正8)年、セツルメントとして、東京の下町で事業をはじめました。当時、墨田区は、東京の中でもっとも人口の密集した、貧しい地域でした。

セツルメントとは、地域の人々と共に、福祉課題をとらえ、その解決のための実践をしていくことを目的としたものです。米国シカゴにあるハルハウスという施設にならい、北米・カナダの宣教師たちによってもたらされました。

セツルメントの考え方は、現在も興望館の児童養護施設、保育園、児童厚生施設の運営の土台になっています。

興望館は、多様な福祉の活動や行事を通して、乳幼児から青年、高齢者まで幅広い世代が会う小さなコミュニティを目指しています。

(集合場所：会場)

(財)本所賀川記念館

都営浅草線 本所吾妻橋 A2 出口
より徒歩 5 分

